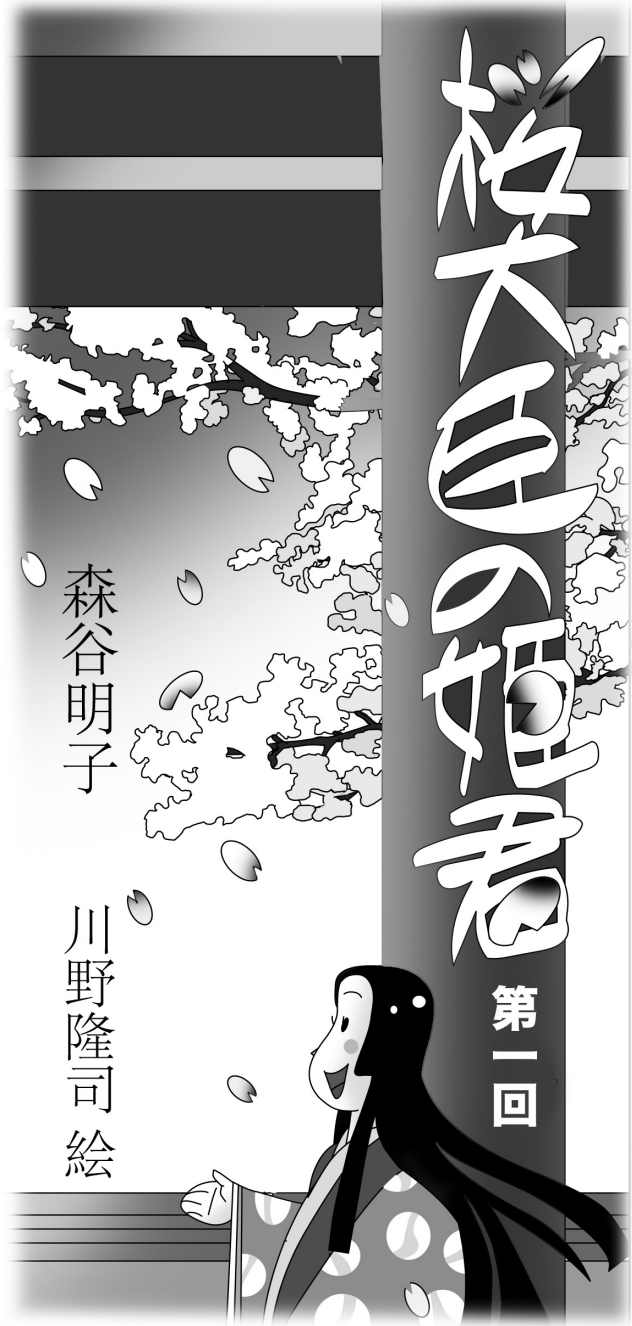


# 桜大臣の姫君

第一回



森谷明子

川野隆司 絵

一 弥生

庭の桜が散り始めている。春の日ざしに花びらが光る。

時は平安、京の都はおだやかに美しい。

屋敷の縁近くにすわった那珂姫は、友人の尚侍なつかみからの手

紙を膝に置くと、その桜をながめた。宮廷の位高い女官で

ある尚侍はよく手紙をくれるが、今日の文面は何かちがう。

尚侍は恋をしているようだ。相手については一言も触れ

ていないが、誰だろう。一人の幼なじみの少年、明雅あきまさとか？

とにかく、親友が自分とはちがう世界に行ってしまった

ようで、妙にさびしい。むじゃきな子どものころがなつか